

Capo. 3 G

Capo. 1 A (オ-フ-ン-D)

A\*

カレ = 9 -

C D G E\_n C D G

<sup>G</sup>いろいろなことが起きた <sup>E\_n</sup>この月が <sup>A\_n</sup>一枚めくるたびに <sup>D</sup>

<sup>C</sup>忘れることが <sup>D</sup>できるのならば、 <sup>B\_n</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>  
 ほんまに救われるだろう

<sup>G</sup>あなたがまたいた <sup>E\_n</sup>この月の <sup>A\_n</sup>初め <sup>D</sup>その頃にはこの <sup>D</sup>結果が

<sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>B\_n</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>  
 くることさえも想像できずに <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>  
 当たり前のように <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>

<sup>G</sup>なりゆきを <sup>E\_n</sup>受けとめるだけで..

<sup>A\_n</sup> <sup>D</sup>  
 できることもなかった

<sup>G</sup> <sup>E\_n</sup>  
 せめて少しの覚悟さえも

<sup>A\_n</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>  
 持っていた <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>

1-3 L A (オ-フ-ン-D)

見たくも見られなくもないこのカレンダー修正テープを引いて

めくる日が来てスッキリするはずがなぜか画像に残して

あなたがまたいたこの月の初めその事実も含めて全部

捨てることがやっぱりできずに <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup> <sup>C</sup> <sup>D</sup> <sup>G</sup>  
 ビニカに残しておきたかった

新しいカレンダー

アタに白くてすみれにかつがる

せめて自分の予定がたたくん

あなたのならば 違ったかも

# Cap 2

## Cap 2.0 オープンD

A

### 誕生日には

G A D G G A D G

G E<sub>m</sub> C D G E<sub>m</sub> C D  
寒い風が吹いて粉雪がほしくつた髪も一瞬で

C G D G  
暖かい鍋の湯気と混じり消えて

C G D G  
そしてフェイスタオルで拭きでそれもある

G E<sub>m</sub> C D G E<sub>m</sub> C D  
今日の誕生日もいつものように君が準備してくれた干し鍋で

C G D G  
よくあるありふれたプレゼント

C G D G  
結局どこにも行かないからこれにたの

G A<sub>m</sub> D G  
Ah Happy birthday to you いつもありがとう

G A<sub>m</sub> D G  
Have a fun birthday today これからも楽し

D G B<sub>m</sub>  
人生まだおもしろい先がある

A<sub>m</sub> G A<sub>m</sub> D G  
歳をとったなと言わない

D G B<sub>m</sub>  
不満をいわずと小言をいわずに

A<sub>m</sub> G A<sub>m</sub> D G  
なにかできるようにしたいわ

## レベル + オープンD

G A D G G A D G

結局積もらずに消えた髪への代わり木枯し音を立てて

開けた窓際めした時 風が高い音で

抵抗した割には あっさり途切れる

今日の誕生日は特別に君の年を私の赤ワイン

よくあるありふれたプレゼント

結局自分も飲みたいたからこれにたの

Ah Happy birthday to you 小言をいわずに

Have a fun birthday today これからも楽し

人生まだおもしろい先がある

歳をとったなと言わない

家内安全 塩分控えめに

永生をできるようにしたいわ

儂い片想い

C Am F G Am Em Dm G G7

F C Dm C F C Dm C  
儂い想いは 虚しく消えてゆくもの

C G Am F C Dm G  
乾いた足音が風に吹かれてゆく校庭の

C G Am F G C  
誰もいなくなってやがてくる夕暮れ

C G Am F C Dm G  
コンクリートの観覧席一人座っていた

C G Am F G C  
届けられなかった言葉を探してた

Am F  
なぜいつもこうなるのか

Dm7 F C E7  
もつと気楽にたればいいのに

Am F  
不意に会うその時に

Dm F C E7  
絞り出すあいさつだけで

F C Dm C F C Dm C  
あなたの儂いあいさつ 身にするだけで終わる

いつもの白い空を 一羽の鳥がゆく

何のために急いでるんだろう

小さな飾り物を 渡せないままに

手にしたバッグに 押し込んで歩く

今はやはり このままでいい

苦しむだけで 済むのなら

この気持ちを 伝えることで

何か壊れてしまおう

あなたの何気ない笑顔 見てゐるだけで終わる

儂い想いは 虚しく消えてゆくもの

# Capo. 1

G#

## 日向ぼっこ

G C D G G C D G

G E Bm C D G  
日向ぼっこ 大人になって忘れてたよ

G D Bm Em C Am D  
しばらくしてなかった 日の光浴びて

G D Bm Em C Am D  
少しはなれたとこには 仰向けになったネコ

Bm Em Am C Am D  
外出控えている 感染対策

Bm Em Am C Am D  
気がついた時には 家の中 閉じこもり

G C D G  
このころのストレスも

G C D G  
向かが不足してたから

忙しい大人には

こんなゆっくりでいいよ

C G Am G C G Am G

# 1-2IL+オーブンド

心と体にはジーンワリ温かく

ゴロゴロとするときは こんなに素晴らしい

子供の頃には 友達とたくしし

こんなところで ゆっくりと過ごした

このころのイライラも

向かが不足してたから

誰かを傷つけて

手遅れにはならぬ良かったよ

日向ぼっこ 大人になって初めて気付く

冬の川辺で

G Am D7 G Am D7

<sup>G</sup>冬晴れ川のそば 差しかかる橋の上

<sup>Am</sup> 指で切り取った雪景色の<sup>D7</sup>中で

<sup>G</sup> 岸辺の白さに色をなくして

<sup>Am</sup> 黒い流れに<sup>D7</sup>光が映る

<sup>Em</sup> 何もかも捨てて <sup>D</sup> 気軽に<sup>Am</sup>なるはずが<sup>B7</sup>

<sup>Em</sup> 虚しさ<sup>D</sup>が<sup>Am</sup>ってきて <sup>D</sup>さみしさ<sup>D</sup>の<sup>D</sup>るだけ

<sup>Am</sup> こちらをみて <sup>G</sup> 一羽だけ

<sup>D</sup> 佇むのは <sup>Em</sup> なんの鳥かな

<sup>Am</sup> 「そんなこと<sup>G</sup>思っても <sup>D</sup>仕方ない」と

<sup>Em</sup> 言われている<sup>D</sup>気が<sup>Em</sup>する <sup>D</sup>

遠くの流水が少し寝ている

ゆずりかた<sup>4アラン</sup> 気嵐 残るところを

マスクを外して 見つけたそのとき

痛いほどの冷たさノドを突き抜ける

強いと言われたながら っらぬいてゆくはずが

ただ一人置いてきぼりにされたように感じるだけ

風をみて 一本足で

佇むのは なんの鳥かな

「そんなこと考えるおれ 今を生きた」と

言われている気がする

Caps. 0

C

## 愚息 数え唄

C F G C F G

C F D<sub>7</sub> G<sub>7</sub>  
ひとつ一とで やつてみるのなうE<sub>7</sub> A<sub>7</sub> F G C  
今が一番 いいのかもしれないC F D<sub>7</sub> G<sub>7</sub>  
ふたつ みるさと振り返らすにE<sub>7</sub> A<sub>7</sub> F G C  
自分の居場所 たくさんにしてA<sub>7</sub> D<sub>7</sub> E<sub>7</sub> A<sub>7</sub>  
さみしがるお母さんA<sub>7</sub> D<sub>7</sub> E<sub>7</sub> A<sub>7</sub>  
たまには メールしてC F D<sub>7</sub> G<sub>7</sub>  
みつつ 皆で 暮らせるのはE<sub>7</sub> A<sub>7</sub> F G C  
しめしたう 最後かもしれない

1-2-1

よつ世の中 甘くはないよ

困った時は いつでも来るかい

いつつ いつでも お前の味方

二人いること 忘れないうでほしい

親えはなれたら

そこのからが スタートだ

あつた者の 思い出たたくさん

残してくれて 本当にありがとう

Capo.3 1-F#L  
Capo.1 オ-7#D

Com

# 都会の冬空

A<sub>n</sub> F G

A<sub>n</sub> G F C  
白くかすんでいた昼の空が

F A<sub>n</sub> F G  
すっかり晴れた夜は 怖いほど黒く

A<sub>n</sub> G F G F  
街を流れる川に映るネオンさえも

A<sub>n</sub> F G A<sub>n</sub>  
青白く光ってこの背筋にしみこむ

A<sub>n</sub> G F C F G A<sub>n</sub>  
ここまで来たのに 予定突然なくなる

A<sub>n</sub> G F C F G A<sub>n</sub>  
あてのない足取りで 有先かぼけて腕を組む

G C G C  
これからここで何をしようか

G C G C  
このまま帰るのは あまりにさみしすぎる

1-F#L + オ-7#D

一人で飲むことなどとてもできない

そう思っていたはずが深くハマって

気がついたらいつだったか深夜にチェックインした

シングルベッドの上 一人腰掛していた

窓から見える空 うきと同心黒さに

この時間になっても ビルのあかりがまだ輝く

酔ってたはずが 素面に寝これ

このまま寝るのは あまりにさみしすぎる